

# 慶應義塾における Cisco WebEx の導入と利用状況の報告

坂東 佑一, 山根 健, 金子 康樹

慶應義塾インフォメーションテクノロジーセンター本部

{bando,takeshi.yamane,yasuki.kaneko}@keio.jp

## A Report of Cisco WebEx Usage in Keio University

Yuichi Bando, Takeshi Yamane, Yasuki Kaneko

Information Technology Center, Keio University

### 概要

慶應義塾では、教育研究活動や事務業務のさらなる効率化、コミュニケーションの活発化のため、シスコ社のクラウド型ビデオ会議サービス Cisco WebEx を導入し、2017 年 2 月より全学向けに提供を開始した。本稿では、導入背景やその特長、大学における典型的な利用方法を述べた後、本学での利用状況と今後の展望について報告を行う。

## 1 はじめに

近年、大学のグローバル化促進や業務効率化による教職員の働き方改革が注目されている。これらを実現するための一要素として、学術・業務ともに場所にとらわれないコミュニケーションの必要性が高まっている。例えば、海外在住の留学生との面談、外部の企業や研究機関との会議、複数キャンパス間での打合せなど、場所が離れていても円滑にコミュニケーションをとることが求められるシーンは枚挙にいとまがない。

こうした需要を受け、本学では 2008 年頃からシスコ社が提供するクラウド型ビデオ会議サービス Cisco WebEx(以下 WebEx)[1]を一部の教職員間で導入し、その有効性を検証してきた。検証の結果、WebEx がコミュニケーションの活発化・効率化に非常に有効であることが確認できた。一方で、ライセンス数の制限などから事前の申請が必要で、より広範なユーザが臨機応変に活用するのは困難な状況であった。

## 2 WebEx の全学導入

学内では学生、教員、職員のいずれもが遠隔会議システムを必要とする機会が増していたことから、2017 年に WebEx の大学向けサイトライセンスであるアカデミックオファー[2]を採用した。これにより全学生・全教職員がいつでも自由に WebEx を利用できるようになった。また同時に、本学の既存の共通認証システムとも連携させ、既存の ID

とパスワードで WebEx を利用できるよう利便性の強化も行った。

WebEx は、PC、タブレット、スマートフォンのマルチデバイスに対応し、複数ユーザが参加するビデオ会議に加えて、資料共有、画面共有、アプリケーション共有といったコラボレーションを支援する機能を標準で備えている。こうした WebEx の機能を活用することで、本学では以下のような恩恵を得ることができるようになった。

例1. 複数キャンパスの参加者からなる打合せを行う際、これまではある 1 キャンパスを決めてそこに集まっていたが、WebEx を活用することで各キャンパスに居ながら打合せを行えるようになり、時間や交通費を節約できるようになった。

例2. 外部業者と至急打合せを行いたい際、場所が離れているためこれまで会議を開催するまでに最低 2 時間は要していた。しかし、WebEx を活用することで、即時に打合せを行えるようになった。

例3. 海外の学生と面談を行いたい際、これまでは国際電話を利用していたが、利用料金も高く、また多人数での参加に向いていなかった。しかし、WebEx を活用することで、インターネット環境さえあれば無料で面談を行えるようになった。また、PC の画面をプロジェクトに投影し USB カメラとマイクを使用することで、参加者が複数いる場合でもお互いの様子

を見ながら面談が行えるようになった。

例4. 研究室の教員が海外出張中だが、至急、卒論の内容に関しデータを見せながら議論する必要が生じた。このような場合でも WebEx の資料共有機能を利用することで、対面と変わらない活発な議論が可能となった。

### 3 利用状況

本節では本学における WebEx の利用状況について報告する。

#### 3.1 学内サービス提供内容

2017年2月1日より全学生約33,500人（一貫教育校生徒・児童を除く）及び全教職員約6,000人に対して WebEx の提供を開始した。WebEx は SAML 2.0 認証に対応しており、ユーザは Shibboleth ベースの共通認証システムである keio.jp からシングルサインオンで利用可能である。図1にログインの様子を、図2に WebEx で会議を予約設定する様子を示す。



↓ 遷移



図1. WebEx にログインする様子



図2. WebEx で会議を設定する様子

#### 3.2 利用者数

2017年2月1日にサービス提供を開始してから2017年8月31日現在まで一度でも WebEx にログインしたことがある利用者は学生が370人、教職員が230人で、合計600人であった。

#### 3.3 会議開催状況

直近3ヶ月(2017年6月1日～8月31日)の期間に学生が主催者となり開催された会議の総数は261件であった。この内、継続時間が1分未満の会議が70件あったが、これはテスト利用だと推測されるため除外すると総数は191件となる。この191件の会議の平均継続時間は約60.1分であった。

一方、同期間に教職員が主催者となり開催された会議の総数は528件であった。この内、継続時間が1分未満の会議が64件あったが、同様に除外すると総数は464件となる。この464件の会議の平均継続時間は約120.5分であった。

表1に学生と教職員の会議開催状況を比較したものを示した。会議開催数は教職員の方が2倍以上多く、日々の業務で活発利用されていることが伺える。また、平均会議継続時間については、学生は約1時間であるのに対し、教職員は約2時間も実施していることがわかった。ただし、教職員の中には会議の有無に関わらず常時 WebEx を起動している者も若干名おり、こ

のことが平均継続時間を長くした一因だと考えられる。また、最も多く会議が開催されたピーク時間帯は、学生は22時と夜型であるのに対し、教職員は9時台と朝型であることが判明した。

図3と図4に学生と教職員それぞれの会議開始時刻の詳細を示している。なお、これらのデータはWebExの管理者権限で利用可能な「レポート機能」を活用して集計した。

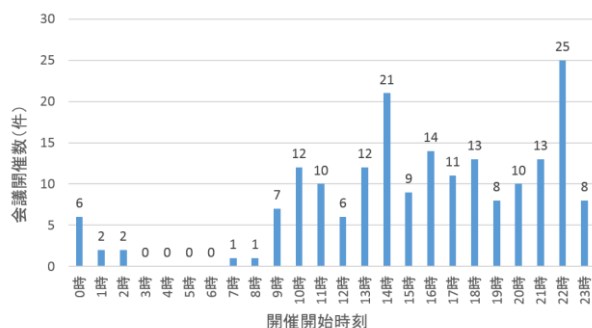


図3. 学生による会議開始時間帯 (期間: 2017年6月1日～8月31日)

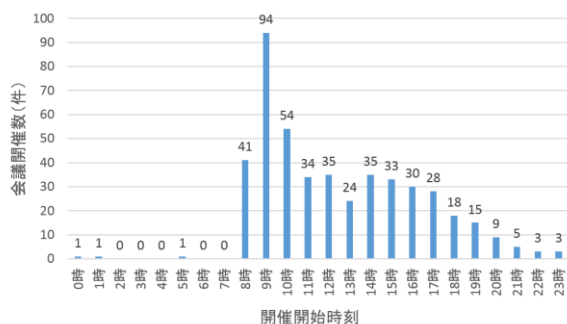


図4. 教職員による会議開始時間帯 (期間: 2017年6月1日～8月31日)

表1. 会議開催状況の比較 (期間: 2017年6月1日～8月31日)

	会議開催数	平均会議継続時間	利用ピーク
学生	191件	60.1分	22時
教職員	464件	120.5分	9時

### 3.4 録画機能使用状況

2017年8月31日現在までに、WebExのサーバ上に録画データを保存したユーザは全16人で、その総容量は約1.5GBであった。本学の契約上、サーバに録画データを保存することができるのは

教職員のみで、上限は教職員共有で50GBまでである。学生はローカル端末にしか保存することができないため、録画機能の使用状況については不明である。

### 3.5 利用者からの問合せ

2017年8月31日現在、学内サポートデスクに寄せられたメールでの問合せは計7件と比較的少数であった。これはWebExのインターフェースが直感的であり、多くの利用者は問合わせる必要無く操作できたためと考えられる。一方で、WebExがまだ学内に十分浸透しておらず、そもそもの利用者数が少ないことも要因と考えられる。なお、各キャンパスのサポートデスクに直接あるいは電話による問合せもあったと推測されるが、本稿では記載していない。

問合せ内容の内訳は表2の通りである。WebExの仕様上、2017年8月時点では録画機能に関して一部制限があるため、録画に関連する問合せが2件あった。ログインとアドオンに関する問合せは単に利用者の勘違い、端末側の不具合によるものであった。音声が出力されないという問合せも単に利用者が「音声に接続する」というWebEx上のボタンをクリックし忘れていたためであるが、初めて使う利用者にはこの操作が少々分かり辛いようである。会議の招待メールを英語で送ることは、各利用者にてWebインターフェース上から言語設定を英語に変更することで対応できる。脆弱性[3]に関する問合せがあったが、本学のWebExのバージョンは既に対応実施済みであったため影響は無かった。

表2. WebExに関する学内からの問合せの内訳 (期間: 2017年2月1日～2017年8月31日)

問合せ内容	件数
Mac OS から録画ができない	1件
参加者の声が高く録音されない	1件
ログインができない	1件
アドオンがインストールできない	1件
音声が出力されない	1件
会議の招待メールを英語で送りたい	1件
脆弱性に関する質問	1件

### 3.6 サービスの安定性

WebEx は公式サイト[4]にて障害情報をリアルタイムに配信している。ごく稀に一部ユーザや一部機能に関する障害は発生しているが、2017年8月31日時点では学内からの障害に関する苦情や問合せは0件であった。

## 4 今後の展望

学内で WebEx を提供開始して以来、活発に利用している利用者もいるものの、全体としてはまだ普及が十分とは言えない。この理由として、単純にサービスの存在自体を知らない、あるいは存在は知っていても利用方法がわからない、という利用者が未だ多いことが考えられる。そこで今後、学内での広報活動をより強化することを検討している。また、利用実態に関し、教職員に関してはある程度使用用途を把握できているが、学生がどのような用途で活用しているかがまだ十分に把握できていないため、今後学生へのヒアリング等も含め検討し利用実態の把握に努めたい。学生・教職員が教育研究活動や業務をより効率的に進められるよう、WebEx を活用した新たなコミュニケーションスタイルを定着させていきたい。

## 参考文献

- [1] “Cisco WebEx 公式ウェブサイト”,  
<https://www.webex.co.jp/>
- [2] “Cisco News”,  
<https://apjc.thecisconetwork.com/site/content/lang/ja/id/7601>
- [3] “CVE-2017-3823 Detail”,  
<https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2017-3823>
- [4] ”Cisco WebEx 稼働状況”,  
[https://status.webex.com/#/service/status?lang=ja\\_JP](https://status.webex.com/#/service/status?lang=ja_JP)